

みんなの学校

耳成南小学校

～こどもが主役～



人権推進だより
2025年度

各学年の取り組み

6年生

～届け、千羽鶴にのせた南っ子の願い～

10月15日の南っ子タイムで、広島市の修学旅行で原爆の子の像に捧げる千羽鶴を1年生から6年生のみんなで作りました。6年生が中心となって、おり紙に平和の願いを書き込み、丁寧に折り鶴を折りました。1年生にとってははじめての経験でしたが、6年生は動画や説明などを工夫して、優しく「この角をこの角にぴったりくっつけて」「うまい、うまい！」と声をかけながら活動していました。

折り鶴にこめられた願い、12歳の少女が見つめた平和

6年生は、道徳「折り鶴にこめられた願い」の教材から、広島市の原子爆弾による影響で白血病になり、短い生涯を終えた佐々木禎子さんのことを学習しました。鶴を千羽折れば病気が治ると願いをこめて禎子さんが、千羽鶴を折ったこと、平和への祈りを込めて禎子さんの友だちが原爆の子の像を作ったことを知りました。

現在、平和記念公園の原爆の子の像には国内外からたくさんの千羽鶴が送られてきます。6年生は、南っ子のみんなの平和への願いを千羽鶴にのせて届けたいと考えました。

また、禎子さんの思いを語り継ぐために南っ子タイムでは鶴を折る活動の他に、禎子さんの千羽鶴のストーリーを他の学年の児童に絵本や映像等を使って伝えました。低学年にも理解しやすいように、工夫をして気持ちを込めて説明しました。

子どもたちのふり返り

- ・ 禎子さんの話が語り継がれていなければ、平和に対する世の中の考え方が変わっていたかもしれません。今ある戦争が早く終わり、世界に平和が訪れることを願います。
- ・ 平和学習で学んだことや考えを深めるだけでなく、自分のできることを考えたり伝えたりしていこうと思いました。
- ・ 12歳で命を落としてしまった禎子さんには夢もあったと思います。禎子さんの思いを受け継いで、願いを込めて鶴を折りました。

☆南っ子で協力して折ったたくさんの鶴を6年生で糸に通し、千羽鶴が完成しました。完成した千羽鶴は、11月14日に行った修学旅行で平和セレモニーの時に、南っ子の平和への思いが届くよう願いをこめて原爆の子の像に捧げました。

5年生

～『こんにちは』世界中の人々とあいさつでつながろう！～

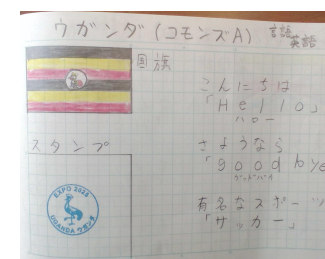
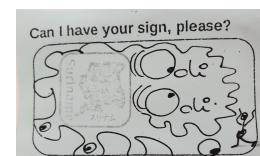
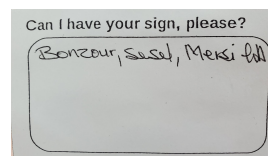
5年生は「色々な人とのつながり」をテーマに1年を通して学習しています。曾爾の野外活動では学級や学年、仲間とのつながりを、幼稚園や地域の方との交流では年下の子や目上の方とのつながりを通し、大切なことをたくさん学びました。また、9月30日に行った関西大阪万博では、「世界中の人々とあいさつをしよう！」を目標に、世界のたくさんの国の人とその国の言葉でたくさんあいさつをする活動をしました。子どもたちは世界中の人々とのつながりを肌で感じることができました。

色々な国の文化やあいさつを調べる

万博に行く前に子どもたちは色々な国のあいさつ（「チョムリアップスオ」（カンボジア）「マーハ」（ガーナ）「ドーブリ・デーニ」（ウクライナ）など）を調べるとともに、交流の際に少しでも身近に感じることができるよう、それらの国の文化も調べました。その国の国旗や有名な食べ物やスポーツなど、子どもたちはノートに何ページも色々な国について調べたことを丁寧にまとめていました。

世界の人に『こんにちは！』頂いたサインとお礼のしおり

万博では様々な国の人とあいさつを交わし、その国の言語を使い、言葉を通して交流を広げました。あいさつをした人にサインをもらったり、自分たちで作った折り鶴のしおりをプレゼントとして渡したり、たくさんの人とつながることができました。



活動を終えて、子どもたちの感想

- ・ はじめて外国の人に話しかける時、とても緊張して勇気も出ず心配しました。でも、一度話しかけるとそのあとも段々と勇気も出てきて話せるようになりました。声を掛けると、「OK!」と返事をもらえてとても嬉しかったです。
- ・ 色々な国の人と交流して、コミュニケーションで一番大切なことは『あいさつ』だと思いました。また、言葉が通じなくてもジェスチャーをしたら伝わったので驚きました。
- ・ 様々な国の人と話をし、何を言っているのかわからない時もあったけど、笑顔でこたえてくれたので自分も良い気持ちになりました。サインもしてくれたし、書いた字を声に出して読んでくれた人もいました。
- ・ 外国の人に話しかけるのは緊張したけど、伝わっているかはわからないけどこたえてくれるのが嬉しくて、最後の方は色々なことを聞くこともチャレンジできました。